

## 緩和ケア内科研修プログラム

指 導 医 石田 文孝

研 修 期 間 基 本 コース 選 択 科 目 4 週 ～ 3 2 週  
小 児 科 ・ 産 婦 人 科 コース  
産 婦 人 科 主 科 選 択 科 目 4 週 ～ 2 0 週  
小 児 科 主 科 選 択 科 目 4 週 ～ 2 0 週

### I 一般目標

緩和医療に関する知識と技術を習得し、さまざまな患者の苦痛に対応できる医師を目指す。

- 1) 緩和ケアの理念を理解する。
- 2) 痛みや苦痛を全人的苦痛として理解し、身体的だけでなく、心理的、社会的、霊的（スピリチュアル）に把握することができる。
- 3) 緩和ケアチームおよび一般病棟において、チーム医療の一員としての立場を理解し、行動する。

### II 行動目標

#### 1) 技術面

- ①病歴聴取（発症時期・様式、痛みの部位・性状・程度・持続期間・推移・増悪軽快因子）
- ②身体所見を適切にとる。
- ③患者・家族への病状説明、インフォームド・コンセントの実践
- ④痛みを適切に評価する。
- ⑤鎮痛薬、鎮痛補助薬を正しく理解し、処方する。
- ⑥薬物の経口投与や非経口投与（持続皮下注、持続静注、口腔粘膜投与）を正しく行う。
- ⑦療養の場の調整（在宅医療機関等との連携）を計画する。

#### 2) 知識面

- ①痛みの定義について述べることができる。
- ②痛みのアセスメントについて具体的に説明することができる。
- ③WHO方式がん疼痛治療法について具体的に説明できる。
- ④神経障害性疼痛について、その原因と痛みの性状、治療法を述べることがで

きる。

⑤痛みの非薬物療法について述べることができる。

(緩和的放射線治療など)

⑥痛み以外のがん末期の諸症状を理解し、適切な薬物投与や全人的ケアを行う。

- ・悪液質(食欲不振、倦怠感、るいそう、体力低下)
- ・消化器症状(腸閉塞、悪心嘔吐、腹水、腹部膨満感、吐下血)
- ・呼吸器症状(呼吸困難、咳、喘鳴、胸水)
- ・精神症状(不眠、傾眠、混乱、不穏、高カルシウム血症、肝性脳症)

⑦がん患者の心理社会的側面を理解する。

⑧スピリチュアルペインとは何かを理解する。

⑨鎮静、輸液について正しく理解し、実践する。

### Ⅲ 研修方法

実際患者を担当して、苦痛緩和方法を学んでいく。また、看護師やコメディカルなど多職種参加のカンファレンスを行う。

### Ⅳ 評価

評価はE P O Cを使用し自己評価及び指導医による評価を行う。